編集後記　GSJ 創立 140 周年記念号

田中　裕一郎 [1)]

GSJ 創立 140 周年記念号はいかがだったろうか．この記念号では 2002 年 5 月に出版された GSJ 創立 120 周年記念誌「地質調査所から地質調査総合センターへ」以降の 20 年間の歩みをまとめた．これは産業技術総合研究所地質調査総合センターとしての 20 年の歴史でもある．この 20 年間に産総研では非常にたくさんの組織改編や事業の変革があり，GSJ も例外ではなかった．一方で，20 年と言うのは，GSJ 職員が在籍する平均的な期間（大学・大学院を出てから定年まで）を 30 年余とすると，半分以上の期間に相当する．120 周年記念誌が出版される前から在籍する職員も減ってきている．GSJ の機関としての節目は 150 周年の方が区切りが良いかもしれないが，上記のような急速な変化の中で，在職者の記憶や種々の資料が失われる前に記念誌として取りまとめ出版することにした．発行に当たり，GSJ 広報アウトリーチ推進チームが中心となって GSJ140 周年記念号編集委員会を 2021 年 10 月に設置し，この 20 年間の組織の変遷表を作成し，それに則り各組織体制の中で研究・業務活動を代表する方々に執筆を依頼した．この GSJ 広報アウトリーチ推進チームは，2019 年に部署を横断する連携体制を組み，広報・アウトリーチ活動を効率的・効果的に推進することを目的に，地質調査総合センターに設置された．具体的には，GSJ の広報・アウトリーチに係る方針や企画の立案，それに係る実務の決定及び情報共有を実施している．執筆依頼後は，編集委員が関係執筆者の担当となり連絡，執筆原稿のチェック等を行った．企画時には，半年も期間をかければ，本記念号は簡単にできあがると思い描いていたのだが，実際には，各執筆を同時に依頼したため，どうしても重複部分や抜け落ちてしまった部分があったり形式にばらつきが出てしまった．そのため，執筆された原稿の内容は執筆者の意を尊重しつつ，編集上必要な箇所について，それぞれの原稿の調整を行った．それでも全体として不十分な点については，関係者のご意見を踏まえ次の 150 周年事業に委ねることにしたい．

編集に当たり，この 20 年間は，独立行政法人化に伴う産総研の組織の変革とともに，GSJ にも大きな波が押し寄せ，新たな試み，方向性の模索が続いている 20 年間であったことを改めて感じさせられる．それと同時に，初めて知り得たこともあり，今更ながら，その当時の状況を顧みている次第である．巻頭言にも書かれているように，今後，「地質の調査」に関する国内唯一のナショナルセンターである GSJ の存在意義を確認したり，将来の方向性を議論したりする際に，本記念号が貴重な資料となれば，編集者として冥利に尽きる思いである．

最後に，ご多忙中にもかかわらず，原稿を執筆いただいた方々に深く感謝いたします．

2022 年 6 月 1 日
GSJ140 周年記念号編集委員会
委員長　矢野雄策
副委員長　田中裕一郎
委員　宮地良典
同　藤原　治
同　相馬宣和
同　森田澄人
同　宍倉正展 (2022 年 4 月から)
同　利光誠一
同　渡辺真人（2022 年 3 月まで）
同　宮下由香里
同　遠山知亜紀

文　献

「地質調査所から地質調査総合センターへ」編集委員会（2002）地質調査所から地質調査総合センターへ．地質調査総合センター，89p.

1）産総研 地質調査総合センターシニアマネージャ
キーワード：地質調査所，地質調査総合センター，140 周年記念

TANAKA Yuichiro（2022）Afterword to GSJ's 140th Anniversary special issue.